

総合的な学習の時間③ プロジェクト型探究×教科教育

勤務校では「Learning by doing」を教育理念として、観察、実験実習などを通して本物に触れる教育を実践している。手を動かし、試行錯誤しながら主体的に学ぶ経験学習は、理科の実験や社会科のフィールドワークだけでなく、あらゆる教科教育で展開される。観察したことを分析して、失敗したり成功したりしながら法則を導き出し、表現する。これらの学びは、プロジェクト型探究でも応用される。

組の文化祭展示発表のテーマは「食品サンプル」。生徒は4班に分かれ、フィールドワークを計画した。1班は、浅草でろうを原料とした食品サンプル作りを体験し、職人へのインタビュー調査を行った。2班は、新宿で食品サン

ドワークを行ったが、具体的な成果には結び付かなかった。このように、生徒が計画するフィールドワークの中には、うまくいかないものもある。原因は、フィールドワークの目的と場所が合っていない

で食事をして、サンプルと実物の比較を行うことを提案し、生徒は比較結果をまとめた。さらに、化学的な視点を加えるようにとアドバイスするが、生徒はどうすればよいか分からなかった。そんなときに、興味を持った教員がアクリル樹脂の食品サンプルを作り提供してくれた。化学の教員はアルギン酸ナトリウム

試行錯誤と自問、経験の連続が肝要

と乳酸カルシウムを使った人工イクラを作る

実験キットを紹介してくれた。文化祭では、食品サンプルのイクラ軍艦作り体験を待つ人の列ができ、整理券を配布して対応した。そして、B組は銀賞を受賞した。

プロジェクトの過程で難題に直面すると、生徒は試行錯誤しながら自らに問い掛ける。その問いと経験の連続により、探究的な学びを深めていく。

しかし、生徒は失敗から学ぶ。この状況に危機感を持った1班が、学校周辺の仙川の食品サンプル調査を行い、浅草と仙川の食品サンプルマップを作成した。文化祭委員は、自ら食品サンプルを作った。私は、食品サンプルがある店

プロジェクトの過程で難題に直面すると、生徒は試行錯誤しながら自らに問い掛ける。その問いと経験の連続により、探究的な学びを深めていく。

吉崎 亜由美

桐朋女子中・高等学校(東京都)教諭

私は、食品サンプルがある店

私は、食品サンプルがある店



吉崎 亜由美

桐朋女子中・高等学校(東京都)教諭

私は、食品サンプルがある店